

奨励賞（北國杯） 賢ちゃん （石川県 小学3年）

2045年、僕の住む北陸地方はどんな社会になって、僕たちはどんな生活をしているでしょうか。僕は、みんなが社会の一員として身の回りの難問や課題の解決に向け力を注いでいて、きっと今よりも毎日ワクワクしながら生活を楽しんでいると思います。

なぜなら、2045年にはSDGsの17の目標が、もう目標ではなくて当たり前になっているはずだからです。17の目標が当たり前になった社会は、今よりもっと住みやすくなっているはずです。そして、さらに住みやすい社会を作り、豊かな生活をおくるために、みんなで知恵を出し合っていることでしょう。

では、どうしたらそんな社会や生活が実現できるでしょうか。それはみんながSDGsの目標の達成を、自分の問題として考え始めることだと思います。そして、自分ができることを実行していけば、それが積み重なって、もっと住みやすい社会や生活が実現します。そう考える僕も少し前までSDGsは国や会社などが取り組む目標だと考えていました。小学生の僕にとっては、目標が大きすぎて、自分のこととして考えられませんでした。

そんな時に、THE SDGs アクションカードゲーム「X」で遊ぶ会がありました。「X」のカードゲームを遊ぶうちに、課題の解決法を考え、SDGsが身近なものになりました。そして、日ごろの自分の行動がSDGsのそれぞれの課題にどんな影きょうを与えているのか想像するようになりました。また、だれかに目標を達成してもらうのを待つだけではなく、僕自身も目標の達成に向けて役に立てるかもしれないと考えるようにもなりました。他の人から「やりなさい」と言われたことは「やりたい」という気持ちがなくなってしまうです。宿題をやりようと思っていたのに、お母さんから先に「宿題をやりなさい。」といわれるとやる気がなくなってしまうのと同じです。SDGsの課題に対する取り組みも他の人から言われてやるのは続かないかもしれません。でも、自分が知恵を絞ってやりようを決め

れば続けることができます。「ちりも積もれば山となる」という言葉の様に、一人一人ができることは小さいかもしれませんが、みんながその小さなことに取り組み、大きな SDGs の目標の達成につながっていくはずで

僕は北陸地方の生活で特に守っていきたいものがあります。それは海の豊かさです。僕は魚が大好きで、買い物に行ったときに魚を選ぶのが楽しみです。スーパーに行けば、石川県でとれた新鮮な魚がたくさん並んでいます。これだけを見ていると石川県は海が豊かでよかったなと思いますが、海にはマイクロプラスチックの問題や漁かく量の問題、両氏の後継者の問題などがあります。

豊かな海を守るために、何ができるのかを考えてみました。普段使っているものをつかえるうちは大事に使って、すぐにゴミにしないこと。ゴミをきちんと捨てて海に流出させないように気をつけること。もしゴミを見つけたら、見て見ぬふりをしないで拾うこと。これらは今すぐにでも実行できます。そして、それ以上に大事なものは色々な立場の人とどんどん意見を交かんして、もっといい方法が無いかみんなで見つけ出すことです。そうすることで、例えば、マイクロプラスチックを新しい資源にする方法やごみをポイント化して、みんなに参加してもらおうシステムが開発できるかもしれません。

SDGs の 17 の目標を達成した時には、一緒に解決策を考えた色々な立場の人たちとつながり、難しい課題をがんばって解決できたという連帯感や自信を手に入れていることでしょう。そんな 2045 年をむかえるのが今から楽しみです。僕もそのメンバーとしてがんばります。